

## 認知症に関する活動計画（概要）

福岡県作業療法協会では、保健福祉部内に認知症作業療法推進委員会を設置している。活動は、「認知症アップデート研修」「地域支援事業関連研修」をはじめとした研修企画、開催、認知症にやさしい図書館事業を軸に展開している。各市町村における認知症関連の地域活動とのつながりを深め、並行して、地域活動が出来る作業療法士の育成、会員のつながりの強化を図る活動を強化している。

## 認知症にやさしい図書館事業

### ・ブックカフェの開催

令和4年10月9日に小倉南図書館にて、ブックカフェを開催した。内容は作業療法士による講座、館長による絵本朗読、交流会である。交流会では、市民の方々に加え、大学生ボランティアの参加もあり、多世代交流の場となった。参加者の事後アンケートでは、「知的な雰囲気を保ってもらえた」「若者との交流は久しぶりだった」「絵本から力をもらった」など、イベントに対して肯定的な意見が多数挙がった。また、学生ボランティアからは「認知症カフェの新しい形態を経験できた」「認知症の人との会話が初めてだった」と学内では体験が難しい意義の高い活動の場であったと考えている。

これらを踏まえ、令和5年度は八幡図書館（令和5年9月10日）、小倉南図書館（令和5年10月8日）で開催する。

### ・小さな本棚（認知症関連の推薦図書を紹介する冊子）の作成

認知症の普及啓発事業の一環として、小冊子「小さな本棚」を作成した。今年度は、【当事者メッセージ編】として、本人の言葉や本人の言葉を代筆した本のなかから、作業療法士が10冊を選書し、それぞれ推薦文を書いている。本冊子は、図書館でのブックカフェ内での紹介をはじめ、図書館等での設置、配布をしている。

次年度以降も、年度ごとにテーマを設定し、テーマに沿った本の紹介を行い、認知症の普及啓発を行なっていく。



ブックカフェ内の講座の様子



図書館内に設置された認知症コーナー



作業療法士が選書した10冊を紹介している

## 福岡市オレンジパートナーズへの団体登録と活動

福岡オレンジパートナーズとは、認知症の人とその家族、企業、団体、医療。介護。福祉事業者、行政で構成し、認知症について自主的に「知る」「考える」「つながる」「行動する」ためのコンソーシアムであり、認知症になっても自分らしく生きるために何が出来るかを考え、実際の取り組みにつなげることを目指している。福岡県作業療法協会は団体登録を行なっており、各種研修会、意見交換会への参加を行なっている。

加えて、アルツハイマーデーに関する普及・啓発イベントでは、福岡市が配布しているミニのぼりの設置やフライヤーの配布を県内の5校の養成校で行った。

